





水 2  
門 號 5407  
卷 1



詞玉緒乃序

冬も了今を春とのどろある此代  
乃先ぞふ。さくや此言葉乃花もふ原  
ひまさりて。いよむむじとたのまきころゆひよ  
たりむありける。志うけあれども。影さく見え  
る山のおの。いあさきうひよあひのかど  
と。やほちのれとれとあじくしきまららお



○玉のを序

1

昭和36年5月9日寄  
平野金之助氏贈

36, 603



かろかろ。こよなきは。こよのくちのむ。くら  
あつ山。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。

殺波。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。  
あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。あつこ。











そ。み。ど。か。〜。あ。〜。む。お。ひ。ら。き。お。ひ。  
い。ま。じ。ま。さ。の。〜。の。〜。あ。あ。あ。  
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。  
あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

一。き。は。の。火。ん。も。そ。ら。ま。あ。べ。く。ま。ま。  
ま。え。な。〜。き。え。て。も。え。〜。あ。べ。く。ま。ま。  
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。  
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。



うゝ。姑ぬきはらぬ。てふをばうら  
 ん。そもかくもあつゝ。まじなむを  
 又よきくゝなむ。

あふらハ年十二月六日

本庄宣長

詞の玉結目錄

〇一の巻

惣論 九の巻より

三轉洗哥 十の巻より

志 志 志 十の巻より

志 志 志 十の巻より

てき てー 十の巻より

〇正る 正る 正る 十の巻より

あま あま あま 十の巻より

なま なま なま 十の巻より

志 志 志 十の巻より

志 志 志 十の巻より

〇むぬ ぬ 十の巻より

せむ せむ せむ 十の巻より

たむ たむ たむ 十の巻より

めむ めむ めむ 十の巻より



○ろる ころる くれ ころる

てる てる くれ 日

める める くれ 日

○ぬぬ ぬぬ ぬぬ ニッ ころる ころる

○せせ せせ せれ ニッ ころる ころる

うう うれ ニッ ころる

ふふ ふう ニッ ころる

○くく くる くれ ころる

つつ つつ ころる

ふふ ふう ころる

せせ せる せれ 日

へへ へへ へれ ころる

せせ せる せく ころる

つつ つつ ニッ ころる ころる

くく くる ニッ ころる

ぬぬ ぬぬ 日

せせ せれ ころる

ぬぬ ぬれ ころる

むむ くれ ころる

ゆゆ ゆゆ ころる

うう うれ ころる

○くけ ころる

つて ころる

むめ ころる

○んめ ころる

きん きめ ころる

てん てめ ころる

○まみ ころる

はく ころる

ふふ ふう ころる

ませ ころる

ふへ ころる

ふふ ころる

らん らめ ころる

あん あめ ころる

らん らめ ころる

らん らめ ころる

らー ころる

うま ころる



○二の巻

三十一の巻の上へうらむてふきは 一の巻より

まゝあつてふをそし 七十八の巻

變格 八十九の巻

本意ふゆつゝ格 九十九の巻

てふきは不測の 十の巻より

一本にてふをそしを写し保つてさう 十一の巻より

○三の巻

そ 六ヶ條 一の巻より とも 三の巻

む 四の巻より とも 四の巻 とも 五の巻 とも 六の巻 とも 七の巻 とも 八の巻 とも 九の巻 とも 十の巻

せむ 六の巻 とも 六の巻 とも 八の巻 とも 八の巻

も 五ヶ條 九の巻より とも 十二の巻

ぞ 九ヶ條 十二の巻より とも 十七の巻 とも 十八の巻 とも 十八の巻 とも 十八の巻

とも 十五の巻 とも 十五の巻 とも 十五の巻

の 十三ヶ條 十五の巻より とも 十五の巻 とも 十五の巻

か 十五の巻

○四の巻

や 八ヶ條 一の巻より とも 十三の巻 とも 十三の巻

めや 十の巻 とも 十の巻 とも 十の巻 とも 十の巻 とも 十の巻 とも 十の巻

まや 十五の巻より とも 十七の巻 とも 十八の巻



○五ノ上

や 歎息 十八のひらき  
や 雑 三ヶ條 五のひらきより  
まや 五のひらき

や 雑 三ヶ條 五のひらきより  
まや 五のひらき

加 五ヶ條 五のひらきより  
うん 二ヶ條 五のひらき  
うん 二ヶ條 三十のひらき  
三のひらき

めうと 五のひらき  
うふ 五のひらき  
うや 五のひらき

何の類 八ヶ條 五のひらきより  
あふ 五のひらき  
あど 五のひらき  
あそ 五のひらき

たき 二ヶ條 五のひらき  
うふ 五のひらき  
うん 五のひらき  
うん 五のひらき

うん 五のひらき  
うん 五のひらき  
うん 五のひらき  
うん 五のひらき

あそ 十二ヶ條 一のひらきより  
うん 二のひらき  
うん 三のひらき

あそ 一のひらき  
あそ 二のひらき  
あそ 三のひらき

こ 十ヶ條 十一のひらきより  
こも 二ヶ條 十のひらき  
十六のひらき

ご 十七のひらき  
ごん 十七のひらき  
ごん 十七のひらき

を 四ヶ條 十八のひらき  
をん 十八のひらき  
をん 十八のひらき

ホ 七ヶ條 十九のひらきより

て 五のひらき  
あそ 五のひらき  
あそ 五のひらき  
てへ 五のひらき

で 五のひらき  
あそ 五のひらき

あ 四ヶ條 五のひらきより

み 三ヶ條 五のひらき

よ 二ヶ條 五のひらき  
てよ 五のひらき  
こよ 五のひらき  
よま 五のひらき

祿 五のひらき



志 助辞 五のひより

志 二ヶ條 五のひより

らく 五のひより

まく 附ま 五のひより

きく 附き 五のひより

か 五のひより

○七の巻

むらびと

志 一のひより

志 一のひより

あ 二のひより

あ 二のひより

ぬ 四のひより

つ 五のひより

組後十九段より廿二段までの事 五のひより

ん 八のひより

き 十二のひより

ま 十六のひより

は 五のひより

が 附が 五のひより

○七の巻

右風動

美奈奈中ておまはしつゝ

同奈中ておまはしつゝ



は来世言は一つの格 八乃抄

は来世言は一つの格 八乃抄

古風の辞づらひ 十の抄より

と くと とも ともよ 十一の抄より

ぞ ぞぞ ぞも 十の抄より

の 十六のひ

や じゃ やや やも ききや 十七の抄より

か かも かうと 七の抄

あ あり やい とも ともよ 七の抄より

あ 七の抄 七の抄

い 七の抄 くらぐのやとめ辞 七のひ

たを器く格 七の抄 くらを器く格 七の抄

ふよふふゆ 七の抄 七のひ

よふ似るを 七の抄 七のひ

ふよふふよ 七の抄 七のひ

むむ 三乃の抄 七の抄

かんのこのもん 七のひ

あま あまあ あせぬり 七の抄

がひ がふ 七の抄 七の抄

そ祿 七のひ











くりかへしつらまじりて。人々へふとあつておぼろけり。いふ  
 一乃よなぢどもの。うきうきおぼろけり。いふ。おのづから  
 のふとより。つらまじり。おぼろけり。いふ。おのづから  
 せしむる。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。  
 ちとど。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。  
 かんたんに。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。

○てふ。おのづから。いふ。おのづから。いふ。おのづから。いふ。  
 ちとど。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。  
 とつよの。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。  
 うづり。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。

ちとど。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。  
 とつよの。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。  
 うづり。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。

○紐鏡の三條の大綴（おつづ）へ。右（みぎ）と徒（た）の結び一條。左（ひだり）の結び一條。け  
 び一條。中（な）のや何（なに）の結び一條。右（みぎ）と徒（た）の結び一條。左（ひだり）の結び一條。け

三條あり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。  
 をいふ。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。  
 切（き）り。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。おのづから。おぼろけり。いふ。







の脛にあり。脛ぐく辞を中行の脛にあり。伴のぬつろくぬ

脛 **あ** 一の例又准へる。いづれを考へるべき。又切る所も

脛ぐく脛とはぐき詞も有り。関成法を知らぬ **く** **き** **つ** **ふ** **ろ** のも

ぐひ。又 **ん** **らん** **らん** **き** のおと。とらへる詞のつらぬがぬにあてがひて。切

とつたもさる。むも後の才世三股 **く** **け** **てん** **てめ**

まを。合せて十一股の辞とせむ。此十一股を皆切ると脛ぐくもはぐき

を中。右 **り** と申す。一つあるなり。考へるべき。

○むも後の右の脛ぐく **は** **を** **徒** の脛ぐく辞。中行の脛ぐく **ぞ** **の** **や**

**何** の脛ぐく辞。左の脛ぐく **は** **を** のむもび辞。かくて右の脛ぐく **は** **上** **よ** **い**

ふぬくとも切る辞をば。いとより脛ぐく **は** **ま** **が** **ひ** **る** **き** **を**。中 **は** **は** **こ** **を**。下

へ脛ぐく辞をさふ。 **ぞ** **の** **や** **何** の脛ぐく **あ** **ら** **る** **い** **ま** **ぐ** **き** **半** **ハ** **難** **ハ** **あ**

とぬべし。今そのんばを **あ** **ら** **る** **い** **ま** **ぐ** **き** **半** **ハ** **難** **ハ** **あ**

く辞をさ上よ **ぞ** **の** **や** **何** の **て** **ま** **を** **い** **ら** **る** **時** **を**。その脛ぐくとあり。切

あ。係を一つ二つあがし。右 **は** **素** **喜** **下** **ふ** **ら** **る** **い** **ま** **ぐ** **き** **半** **ハ** **難** **ハ** **あ**

様む。日 **上** **よ** **い** **ま** **ぐ** **き** **半** **ハ** **難** **ハ** **あ**

**志** **あ** **ら** **る** **い** **ま** **ぐ** **き** **半** **ハ** **難** **ハ** **あ**

常のさぬあり。 **何** **を** **い** **ら** **る** **時** **を** **見** **る** **は** **二** **つ** **の** **志** **ハ** **何** **ト**

ア **切** **ら** **る** **い** **ま** **ぐ** **き** **半** **ハ** **難** **ハ** **あ**

下に **あ** **ら** **る** **い** **ま** **ぐ** **き** **半** **ハ** **難** **ハ** **あ**

と **あ** **ら** **る** **い** **ま** **ぐ** **き** **半** **ハ** **難** **ハ** **あ**

と **あ** **ら** **る** **い** **ま** **ぐ** **き** **半** **ハ** **難** **ハ** **あ**

と **あ** **ら** **る** **い** **ま** **ぐ** **き** **半** **ハ** **難** **ハ** **あ**































右 子 中 左 九 才七反

右

人<sup>右十九</sup>ふりむつき<sup>後十九</sup>はき<sup>凡雅十</sup>ふ<sup>才七反</sup>ひ<sup>才七反</sup>ま<sup>才七反</sup>し<sup>才七反</sup>む<sup>才七反</sup>ひ<sup>才七反</sup>ち<sup>才七反</sup>る<sup>才七反</sup>火<sup>才七反</sup>ふ<sup>才七反</sup>ん<sup>才七反</sup>や<sup>才七反</sup>を<sup>才七反</sup>を<sup>才七反</sup>

中

徒<sup>才十九</sup>に<sup>才十九</sup>の<sup>才十九</sup>ま<sup>才十九</sup>き<sup>才十九</sup>け<sup>才十九</sup>ば<sup>才十九</sup>り<sup>才十九</sup>ひ<sup>才十九</sup>あ<sup>才十九</sup>し<sup>才十九</sup>時<sup>才十九</sup>多<sup>才十九</sup>あ<sup>才十九</sup>か<sup>才十九</sup>う<sup>才十九</sup>う<sup>才十九</sup>ん<sup>才十九</sup>と<sup>才十九</sup>あ<sup>才十九</sup>り<sup>才十九</sup>や<sup>才十九</sup>う<sup>才十九</sup>の<sup>才十九</sup>

九

何<sup>才十八</sup>の<sup>才十八</sup>ま<sup>才十八</sup>あ<sup>才十八</sup>ひ<sup>才十八</sup>あ<sup>才十八</sup>し<sup>才十八</sup>ぢ<sup>才十八</sup>は<sup>才十八</sup>あ<sup>才十八</sup>う<sup>才十八</sup>ふ<sup>才十八</sup>も<sup>才十八</sup>い<sup>才十八</sup>つ<sup>才十八</sup>う<sup>才十八</sup>ハ<sup>才十八</sup>君<sup>才十八</sup>乃<sup>才十八</sup>き<sup>才十八</sup>あ<sup>才十八</sup>ら<sup>才十八</sup>時<sup>才十八</sup>あ<sup>才十八</sup>る<sup>才十八</sup>

○此反ちあうむをて結ぶる前ハ例らゝあられを累らる

中

せ<sup>才七</sup>じ<sup>才七</sup> せ<sup>才七</sup>ふ<sup>才七</sup> せ<sup>才七</sup>き<sup>才七</sup> 才<sup>才七</sup>ハ<sup>才七</sup>反<sup>才七</sup>ハ<sup>才七</sup>

右

ち<sup>才六</sup>川<sup>才六</sup>君<sup>才六</sup>の<sup>才六</sup>あ<sup>才六</sup>る<sup>才六</sup>は<sup>才六</sup>神<sup>才六</sup>杖<sup>才六</sup>う<sup>才六</sup>づ<sup>才六</sup>り<sup>才六</sup>ま<sup>才六</sup>う<sup>才六</sup>て<sup>才六</sup>あ<sup>才六</sup>ゆ<sup>才六</sup>あ<sup>才六</sup>べ<sup>才六</sup>を<sup>才六</sup>ま<sup>才六</sup>こ<sup>才六</sup>り<sup>才六</sup>せ<sup>才六</sup>ら<sup>才六</sup>

中

け<sup>才五</sup>の<sup>才五</sup>ま<sup>才五</sup>を<sup>才五</sup>や<sup>才五</sup>く<sup>才五</sup>は<sup>才五</sup>る<sup>才五</sup>も<sup>才五</sup>あ<sup>才五</sup>ら<sup>才五</sup>ぶ<sup>才五</sup>を<sup>才五</sup>な<sup>才五</sup>乃<sup>才五</sup>あ<sup>才五</sup>ら<sup>才五</sup>ど<sup>才五</sup>や<sup>才五</sup>面<sup>才五</sup>が<sup>才五</sup>り<sup>才五</sup>せ<sup>才五</sup>ら<sup>才五</sup>

○け反ぞの何てを結ばるんらうらうら。そかあうをまて  
むまづらうらうらうらうら。

なる<sup>右</sup> なる<sup>中</sup> なる<sup>左</sup> 才<sup>才七</sup>ハ<sup>才七</sup>反<sup>才七</sup>

○あのを一

○才一











申

何 や の ぞ

たれ云 ぞごりのりあひくをぬをたのりよりたとるるをぞあてり  
山里は冬ぞさびさきまらり けり 人めとまもを枯ぬとかりを  
後拾三 くとまめてらん人の涙のや先葉のやしく弱のまきざり けり  
後六 今ハもやうちまきぬべき日海乃むかくまでよとや けり  
後拾七 まさしふや 何ぞさまハ入り けり ひとりハあへゆりどとあふ  
新撰五十七 葉あふ葉 まら茶さよのびべやハ 秋とさバ いづまうぬのうりうざり けり

丸

あそ

たれ云 ぞごりのりあひくをぬをたのりよりたとるるをぞあてり  
あそ おきそ時了そあてり けり 善の心うろすにまのまをれバ

右

の ぞ 徒 毛 七

後六 いせ海ら川一社よりさぐれをうふとさぬ才もさぬり  
日十八 悔とのとまはのさうもさうぬ ぬ せまぐらぬ 秋のまをさバ  
飛鳥川 ちやせふらうらうらとハみまう下の人 ともりぬ  
後拾三 お月あふ日とさぬぬ ぬ せまぐらぬ 秋のまをさバ  
後拾一 いせま ちやせふらうらうらとハみまう下の人 ともりぬ  
日十八 三田川 ぬ茶みぞとてさぐりぬ ぬ せまぐらぬ 秋のまをさバ  
ありふきんきうてもいとへそハ八倍乃さるだふ風ぞさくぬ  
本和歌 花さうきさかガ方ぬぞさびくぬ ぬ せまぐらぬ 秋のまをさバ  
美安三 三田社方々 おき川よふまやうらんあそりまの産買のさづのまさとぬぬ

○たれ云一

○たれ云



中

や

何

左

お

まきまき  
よぶと

て

ち

め

まがりあふちひまつらつまつらまば

め

め

め

ら

か

せ

才十三段

才十段のせと  
とを異なり

せ

か

せ

才十四段

才八段のせと  
とを異なり

て

か

て

才十五段

へ

か

へ

才十六段

め

か

め

才十七段

才十二段のめと  
とを異なり

此五段は院よりくまのふむひまをて一つおまへおせり

後十五

いせの海の傍りはうをさるはぬをほど泳きあつた

た

右

も

徒

万十

日かゆふ妹をぎくら〜風よけ浦乃おきべ〜をたあび

ぞ

万八

日かゆふ妹の萩の下葉を秋風といまぶらぬがく

ぞ

○五のそ一

○七五











左

おそ

大くは秋うらやみに日身了そ  
うねしき物とあひまをぬき  
後三 福ぬよこそ救つりぬき 都ふきく海もまき一了あふよと

つ右

つ中

つ左

才二十段

後六 花えふとあし一のそ秋の野花音にまよひてふとくしつ

右九 才をまきつ 心をふもをまきつひあひくあふくまふく

日ぐころあはふべりけふまきそくく一日あふもくしつ

右十三 くらべとたあまんとくもあふりつ 思ひあふまきまてくあま

後七 今よりあわあふくころまきまき花のみやふやふら定めつ

右十七 日ぐころあふまきあふひつ けふまきやあふあふてく月まき

右

後 色 才

中

ぞ

右十一 けのふとあはふけにがまてけつあふをまきぞうねつ

右二 ぬきつぞあひてまきつ 身の肉あまいくことけしと思へ

後七 後七 ぬきつけはま川あふまきまきけのまきあふてまきまき

右二 あふあまきまき人あまきやまながりあふあふあふしあつ

右二 みやあふてあまきやまきつ 時あふらつきあまきあふまき

右二 まきあふらうあふあひる花の枝あたがあふあふのけうあふ

左一 たき けうあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

右十七 あまき川あふらあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

右十三 けうあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

けうあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ

左

おそ

○才の才一

○才八







ヤ

後六

秋のせはあふあふうううまみまーううう人あまあまうーや

後十四

たがー星によがををうう月うまをたああーと稱るるう

後五下

秋のむーあふううううううのううーれうーはふあやううう

後七

永宿のうのうあふのううううのいうううううううううう

後三

郭ーううううううううううううううううううううううう

後十九

ううううううううううううううううううううううううう

後十一

お坂のううううううううううううううううううううううう

後十一

ううううううううううううううううううううううううう

あそ

何

左

あそ

後十三

あがううううううううううううううううううううううう

差置未

年をへううううううううううううううううううううううう

○片二版を片五版あ合せてうう

○片三版ハ片世一版あ合せてあう

く 右 く 中 う 左 片四版

右

徒

全四 全五 全六 全七 全八 全九 全十 全十一 全十二 全十三 全十四 全十五 全十六 全十七 全十八 全十九 全二十

○あの一

○三十



中 左

ぞ の や 何 左

<sup>右五</sup> 秋あはれ心ささげゆく秋あれを立回川よぞぬさしたむく  
<sup>同四</sup> をみまべししとんつぞゆきとづ男山あきたてと男へを  
<sup>好たま</sup> 玉垣のみ川の傍結まふさばあうふ人の花散もむく  
<sup>好まこと</sup> みてぐらのきつやいさお川辰ふ心のおまをさやたむく  
<sup>るまろふ</sup> 心ささりあむやきとづねほのあくらとまけは朝のあう  
 づ

く

右 中 左

後 ぞ の や 何 左

<sup>右</sup> 秋あはれ心ささげゆく秋あれを立回川よぞぬさしたむく  
<sup>同四</sup> をみまべししとんつぞゆきとづ男山あきたてと男へを  
<sup>好たま</sup> 玉垣のみ川の傍結まふさばあうふ人の花散もむく  
<sup>好まこと</sup> みてぐらのきつやいさお川辰ふ心のおまをさやたむく  
<sup>るまろふ</sup> 心ささりあむやきとづねほのあくらとまけは朝のあう  
 づ

右 中 左  
 舟五段

<sup>月夜</sup> ふく風やさふあうまうより心の心をささる花乃あうお  
<sup>尾十六</sup> ながるるいつながりしてうき心をささるがくまおあうこ  
 づ

<sup>六る</sup> 秋あはれ心ささげゆく秋あれを立回川よぞぬさしたむく  
 づ

○あのを一

○五二







丸

何

たき<sup>サト</sup> ぞのみみおむづもあまふん乃きだのききあづ

ぬき

中

ぞ の や

ふ<sup>右</sup>

あ<sup>中</sup>

ふ<sup>右</sup>

オカ八

おあおめてきつる夜の赤ととの長く ぞ 赤と非あはう ふう  
同十七 けつきけうひぞ わいせきうちそ ふう けいよのま乃きむむ けいよ  
はみのおえはきゆの松のよりひをばうくくと波 やうげ ふう

丸

や 何 ぞ

千代 まみあへー海へあやかきそ ふう たきれびいそ 神のまきし

云 けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし

あふ けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし

けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし

けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし

右

徒

む<sup>右</sup>

む<sup>中</sup>

む<sup>ナ</sup>

オカ九

けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし  
けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし  
けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし  
けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし けいよのまきし







左

右	左
こころをたき川	いづこ
ふ月	いそ
あふ	ゆき

右

ぞ	後	も	え
天の川	三田川	花	月
や	み	な	こ
み	な	こ	こ

中

ぞ	の	や	何	亭
夜	川	あ	い	虫
ぞ	の	や	い	り
ま	の	や	い	り

左

右 中 左  
かた二反











右

何 や の ぞ 徒 色

冬冬秋節の夜は月と香をささるる花の影を面鏡にうつ

天川後のいとを流るる乃きらわつ秋の七日はあきぞまつ

ちのささるるぞ右きぎつ右白川もあまのあふを有られ

人志はぬんやうめてるをゆらんわはまのめあまふたつ

六物 ちくにまづいづあま月を山嶺のまらけ里まなあきそやまつ

つ つ

左

何 色 徒

左 小萩のあきまみ風をまつとをまつ  
人志はぬんやうめてるをゆらんわはまのめあまふたつ

ふ へ 舟のあき

全 かりを流るる乃きらわつ秋の七日はあきぞまつ  
みぢをくつるふ右はまのあまのあふを有られ

徒 色 秋の夜は月と香をささるる花の影を面鏡にうつ  
あきそはは代の娘乃あきひ山天ては秋のあきそ

○右のあき ○秋

ふ























(右)

何	や	の	ぞ	後	色
あなとくくくも若くはまづらういふあう方に思ひたをかん	秋の世ふよるとや孫あんな女をむたまはれおのこ思ひうけつ	三田川に水集みまきてあぐらうり後水孫中やあそとかん	あそとくくくも若くはまづらういふあう方に思ひたをかん	人一一思ひ思をさる一一思ひ思をまつ思ひ思のうらむいせかん	いざ橋をまよとちうかん

後十 うふゆきまきまきかん  
後十 草にの身はわきまをそ人もはくくく  
後十 女をむたまはれおのこ思ひうけつ  
後十 三田川に水集みまきてあぐらうり後水孫中やあそとかん  
後十 人一一思ひ思をさる一一思ひ思をまつ思ひ思のうらむいせかん  
後十 いざ橋をまよとちうかん

(左)

徒	色	色	色	色
よふあそとくくくも若くはまづらういふあう方に思ひたをかん	あそとくくくも若くはまづらういふあう方に思ひたをかん	あそとくくくも若くはまづらういふあう方に思ひたをかん	あそとくくくも若くはまづらういふあう方に思ひたをかん	あそとくくくも若くはまづらういふあう方に思ひたをかん

後十 うふゆきまきまきかん  
後十 草にの身はわきまをそ人もはくくく  
後十 女をむたまはれおのこ思ひうけつ  
後十 三田川に水集みまきてあぐらうり後水孫中やあそとかん  
後十 人一一思ひ思をさる一一思ひ思をまつ思ひ思のうらむいせかん  
後十 いざ橋をまよとちうかん

○あのみ

○あのみ



















ふふあやまるといふ。井にておきそのその入さしやまり。けふハ訓の得まら  
を。そのまにそりまごせしむる。海ぶ。むざんのものあはれを。まごをく  
るべ。

○上の件修くはじらふ。而して修くは開く。があらき。おのづから語り  
よりこぬ。あまふ。まふ。たきと。うづく。又おのが考へり。せしむ。おふ。くべ  
ら。ば。修くは。まふ。の。あ。合。る。首。ま。じ。あ。り。く。あ。ま。ふ。り。と。あ。る。は。あ。り  
こ。し。う。れ。と。あ。り。し。と。り。ま。な。だ。く。後の人考へり。く。ん。ま。い。り。  
か。ま。い。く。と。い。ふ。

○古きまじりゆきか。く。ら。ふ。古。今。ま。あ。り。ハ。古。後。換。き。後。換。き。ハ。後。換。  
今。集。ま。し。金。河。の。河。千。載。と。千。新。古。の。ハ。新。新。換。し。新。換。と。あ。る。せ。り。か  
と。い。は。し。ま。ふ。ま。じ。り。へ。く。あ。べ。り。又。その。下。に。お。の。の。ま。ま。る。せ。り。ハ。その。ま。ま。の。つ。い。て。し。



